

台湾×大槌町 町の魅力を台湾に発信



台北国際動漫節の大槌町ブースで、町アニメのコスプレイヤーと記念撮影



日本館ステージイベントは、多くの人が訪れ大盛況



展示パネルを熱心に眺める来場客

台湾・台北市で開催された「2025台北国際動漫節」に合わせ、2月4日（火）から2月8日（土）までの5日間、大槌町長を含む4人が台湾を訪問。このイベントで大槌町ブースを出展したほか、令和6年4月3日に発生した花蓮地震の視察、またインバウンドのトップセールスを行ってきました。

町アニメで台日交流

町は、地方創生事業の一環として、町オリジナルアニメの制作などをはじめとした、アニメによる町おこしに取り組んでいます。アジア最大級ともいわれているアニメ・漫画の祭典「2025台北国際動漫節」には、令和2年から大槌町ブースを出展していて、今年は6回目。昨今の訪日外客数の増加に伴い、台湾からも大槌を訪れる観光客が着実に増えています。今回は、三陸地域の観光振興を行う三陸DMOや、三陸ジオパーク、みちのく潮風トレイル、三陸鉄道と連携した、三陸エリア全体の広



吉安郷長の游淑貞さんと大槌町長

域でのPRを行いました。また、会場内のステージで行われたイベントでは、町オリジナルアニメのキャラクターと共に、その発祥の由来を台湾の英雄「鄭成功」とする虎舞をはじめとした郷土芸能や食、文化、観光スポットなどを通して、町の魅力を発信してきました。

花蓮地震の現地視察

令和6年4月3日に発生した花蓮地震。その地震で18人が犠牲となった花蓮県を訪問し、復興の状況や当

時の支援活動を視察しました。台北市からいくつもの峠を越え、太平洋側に抜け南へ車で3時間半。台湾東部に位置する花蓮市は、大槌町に東日本大震災の復興支援を継続的にしている財団法人台湾仏教慈善事業基金会（以下、ツーチー）の本拠地にもなります。

本部への初めての表敬訪問となった今回は、これまでの支援に改めて感謝するとともに、大槌町の復興状況などを報告しました。ツーチーが行う「慈済新芽奨学金」制度では、令和7年度には新たに4人の町内学生が採択されています。東日本大震災津波から14年を経過した今もお、大槌子どもたちの実りある学習を支えています。

ツーチーでは、平時から防災部を組織していて、震度6強の花蓮地震発生後の3時間後には、地元の吉安郷役場との協働で小学校に避難所を設置。そのほか、6百食分の昼食提供や、24時間以内に緊急支援金の配布を実施するなどの迅速な支援活動を行いました。また、被災家屋復旧のために、全国から修繕ボランティア

が被災地に集結して再建支援を行うなど、災害対応組織体制を構築しています。避難所で活用しているテントや椅子も工夫が施されていて、プラスチックの再生素材を使用するなど環境を配慮した取り組みもつな



財団法人台湾仏教慈善事業基金会の皆さんと記念撮影

次に訪問した吉安郷役場では、郷長ほか幹部の皆さんと、震災復興に関する取り組みについて報告を受けるなどの情報交換を行いました。吉安郷は人口約8万人の自治体で、職員は約3百人。災害時は全職員が交

代で24時間公務にあたり、警察・消防の職員はボランティアで支援活動に入ることでした。ツーチーや吉安郷役場の災害に対する取り組みは非常に学ぶ部分が多く、この訪問で得た知識も踏まえつつ、さらなる町の防災強化の取り組みを進めていきます。

町の魅力を海外に

2024年の年間訪日外客数は過去最高を記録し、国別では韓国、中国に次ぎ台湾が第3位となります。台湾から大槌町への旅行者数もコロナ禍後、順調に推移していて、更なるインバウンドの誘客に向けて、台湾市内の旅行会社6社を訪問。町の観光、体験ツアー、宿泊施設についてのPRを行いました。

今後、訪日外客数は首都圏エリアから地方へと拡大することが予測されていることから、さらに海外に向けて積極的に、アニメ文化だけに留まらず、食や観光など大槌町の魅力を発信し、海外からも訪れたいくなる町を目指していきます。



台湾市内の旅行会社に、大槌町の魅力を説明



吉安郷役場の皆さんと記念撮影